

土木殿御返事

文永一〇年十一月三日 五二歳

仕り候なり。褒美に非ず、実に器量者なり。来年正月大進阿闍梨と越中に之を遣はし去るべし。

白小袖一つ給<sup>た</sup>び候ひ了んぬ。今年、日本国一同に飢<sup>け</sup>渴<sup>かち</sup>の上、佐渡国には七月七日已下、天より忽<sup>たちま</sup>ちに石灰虫と申す虫の雨<sup>ふ</sup>下り一時に稻穀損失<sup>とうこく</sup>し了んぬ、其の上疫<sup>やくやく</sup>々処々に遍満<sup>かたがた</sup>す。方々死難脱れ難<sup>ことごと</sup>きか。事々紙上に之を尽くし難し。恐々謹言

十一月三日

日 蓮 花 押

土木殿御返事